

平成26年6月27日(金)

老球の細道28

## 『ジョン・ウッデン成功のための八つの提案』

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

アメリカの多くのバスケットボールコーチに史上最高のコーチは誰かとたずねると、ほとんどのコーチがジョン・ウッデン(元UCLAヘッドコーチ)の名を挙げるという。アメリカの本屋さんで必ず第1に薦められるのも彼のコーチングの本である。私もアメリカに行った時にUCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)内のブックセンターで購入したことがある。今でも家宝として本棚に君臨している。

ウッデンはUCLAコーチ時代にNCAA(全米学生選手権)トーナメント10回優勝という前人未踏の記録を達成した。UCLAでは彼の業績に敬意を表して体育館の名前を「ウッデンセンター」と名付けている。アメリカ大学バスケットボールの聖地である。私は今まで3回訪問しているが、行くたびにスケールの大きさに圧倒される。

ウッデン曰く。

「その日、その日を傑作にするつもりで生きていれば、天使にだってできないようなことができるようになる」

バスケットボールのコーチの神様・ジョン・ウッデンの著書『育てる技術』(日本語名)の中に、子どもの頃、尊敬する父から教えられたことが書かれてある。

「なあ、ジョン。自分になれる最高の自分になるよう努力しろ。他人から学べ。しかし、他人より優れた人間になろうとはするな。それはおまえにはどうにもならないことだ。そのかわり、自分になれる最高の自分になるよう一生懸命努力しろ。それならおまえにもなるとかなる。おまえはもしかすると他人よりも優れた人間になるかもしれないし、そうはならないかもしれない。そういうことは自然にまかせておいたほうがよい」

ジョン・ウッデンは父のこの言葉の影響を受けて、1934年、ついに自分なりの『成功の定義』を考案した。

「成功とは、自分になれるベストの状態になるために最善を尽くしたと自覚し、満足することによって得られる心の平和のことである。それから派生するもの・・・たとえば得点、トロフィー、全国優勝、名声・・・それらはすべて副産物である」

この成功を達成するために何をしなければいけないか、どのように行動しなければいけないか、八つの提案をしている。現在でも、日本においても十分通用する内容であり、大切な教訓である。

- 1・対戦相手を恐れるのではなく尊敬しよう。
- 2・最もささいなことに完全を期すことが、大きなことを成し遂げることに繋がる。
- 3・一生懸命やることが多くのミスをカバーする。
- 4・評判よりも人格に関心を持とう。
- 5・迅速さが大切だ。しかし、あわててはいけない。
- 6・努力すればするほど、多くの幸運に恵まれることを理解しよう。
- 7・向上するためには自分を明確に分析することが不可欠である。
- 8・努力と周到な計画にとってかわるものはないことを忘れてはいけない。準備しそこなうことは、しそこなう準備をすることだ。